

サンデードライバー

小西倫加

銀河の中心を見に南半球へ行く

わたしは僻地へ向かうサンデードライバー  
アクセルを踏み込むと枠組みが前進するのとは裏腹に  
中身は数ミリ置いて行かれてしまった

いくら瞬きを繰り返しても

オンボロ車はスーパーカーにはならないし  
アスファルトは草原にはならない  
痺れを切らして降りてみるとなんと  
脳みそが空に引っ張られて  
私の体から離脱していつてしまつた

近日の暑さでそれは茹で上がつていたし  
からつぽの頭で別に必要ないかも知れないと思つたことを  
わたしは情けないと思つた

中に戻ると冷房をかけすぎていることに気づいた  
目を閉じ深呼吸をして

後戻りできない車のアクセルを再び踏んだ  
車にはナビがついていないが  
好きな音楽が鳴っている、そんな諦念を  
わたしは情けないと思つた